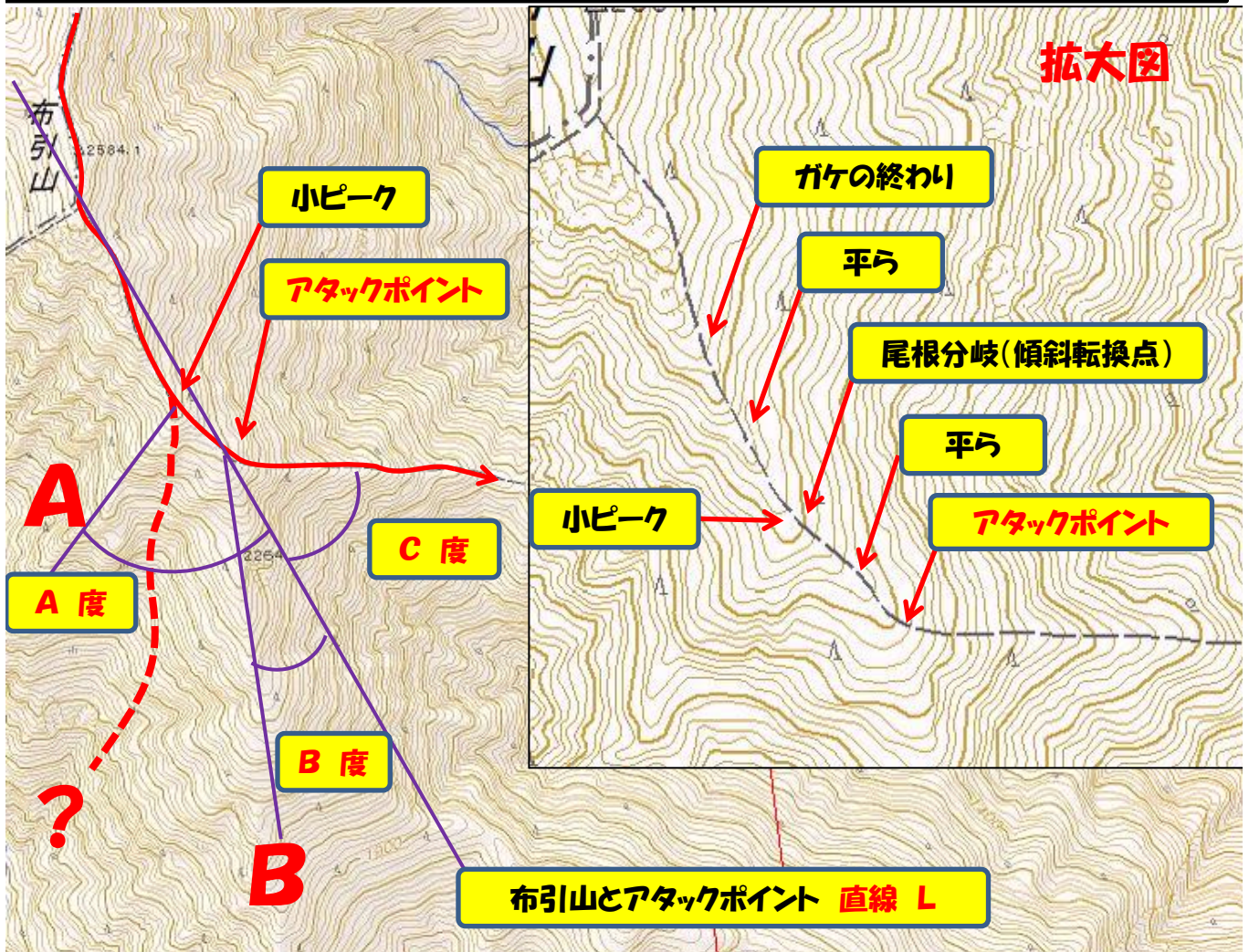


## 策ヶ岳遭難(2014年5月)

積雪期に策ヶ岳～布引山の下山の出来事。アタックポイント手前小ピークから点線沿いに間違っただれが付いていた。トレースを付けた登山者は間違いに気づき正規ルートに戻ったが、後者は間違いのトレースをそのまま下り遭難した。救助ヘリが捜索したが見つからず、約1カ月後に釣師が発見した。



## 解説

この下山は、難しい。特に積雪期で視界が悪い場合は、尚更である。拡大図をみると、それぞれ、傾斜転換点の特徴物となり、現在位置確認を行うことになる。では、予測はどのように行うのだろうか。

①布引山でコンパスをアタックポイントを指し(直線L)進行方向を確認する。②アタックポイントまでの距離は〇〇mだ。③標高差200mだ。④コンパスを確認しながら進むが、コンパスの針とリングがA度ずれば、Aの尾根に迷いこんだことになり、B度ずれば、Bの尾根に迷いこんだことになる。⑤そもそも正しいルートは、直線Lよりも東側にあるので、直線Lよりも西側に傾くことは、間違っただれ根を意味する。

以上の予測を布引山で立てた後、行動する。行動中も進行方向より東側に尾根分岐があるかどうかを意識して進みたい。拡大図の小ピークの位置は、「尾根の分岐+平の終わり」なので小ピークができやすいので現在位置確認ができそうだ。アタックポイントと記したところは、進行角度が変わるというだけで、決して顕著な特徴物ではないので、小ピークからの距離と地形的な平らがあることを確認したい。

いずれにしても、コンパスの使い方ができるか出来ないかによって、現在位置確認の信頼度が格段に変わってくる。スマホ等のGPS機能を使って現在位置を確認したい場所でもある。